



「まるごと茨城」とは…茨城県の提携生産者と一緒に茨城県の食料自給率向上を進めながら、生産現場を知る活動です。

開催日:2021年5月9日(日)

場所:げんき米生産体験田(茨城町)

## 田んぼの学校 第2回

### げんき米生産体験田・田植え



▲2021年5月9日 今年も機械を使わずに手で植えました。

※応募していた5/15の田んぼの学校「田植え体験」は新型コロナウィルスの影響により、組合員参加の活動は中止になりました。田植え自体は生産者4名と事務局(1名)で実施することに決まり、例年よりも暖かく苗の生育が早かったため、一週間早い5/9(日)に実施しました。

田んぼの学校・・・生産者の田んぼを2001年からお借りし、げんき米(※)生産体験田としてこれまで20年間(2021年現在)無化学肥料、無農薬栽培の米作り体験(圃場測定、田植え、草取り、生き物調査、稻刈り)を行っています。田植えや稻刈り(秋には新米)の時には生産者に「げんき米」を羽釜で炊いてもらい、参加者全員で試食を行っています。(コロナ禍のため試食は中止中)

※げんき米とは・・・生活クラブ茨城の組合員が茨城の地場生産者(有)丸エビ俱楽部に生産を依頼し、毎年作付けを行っているお米です。げんき米1号(ゆめひたち)と2号(コシヒカリ)、玄米(コシヒカリ)の3種類を取り組んでいます。農薬の使用回数は多い場合でも2回までの使用(県の定める基準値以下の使用回数)としているなど、安全性も考慮し、茨城県特別栽培農産物の認証も受けているお米です。

- まるごと茨城の活動の様子は、こちらから閲覧できます。

<https://ibaraki.seikatsuclub.coop/member/marugoto/report.html>

## ■ 田んぼに「線」を引く



▲苗を植える目安を作るために、田んぼに線を引きます。

## 無農薬・無化学肥料のお米を作るために

茨城町にあるげんき米体験生産田(株)丸エビ俱楽部は、無農薬・無化学肥料でお米を作り続けている田んぼです。農薬を使わないということは、人にとって安全なお米を提供できる半面、病害・虫害のリスクが高まります。この田んぼでは株間(苗と苗の間)を通常よりも広くすることによって、風通しを良くし、病虫害が蔓延しないように工夫しています。慣行栽培では株間 15~20 cmですが、こちらではその 1.5~2 倍の 30 cm 株間にしています。

この間隔は、現行の機械では植えることができません。ですから、手で植えることになります。手で植えるにしても、30 cm の間隔を「感覚」で植えることは到底不可能ですから、目安を付ける作業をします。写真のような道具(線引き道具)を引いて歩きながら、田んぼの中に線を引いていきます。碁盤の目のように線を引き、縦横の線の交差点が苗を植える点になります。



文章で読むだけならば簡単に聞こえますが、慣れない人が田んぼのぬかるみを歩くのは、それだけで重労働です。しかも、道具で線を引きながら、1.8 反歩(約 1800 平方メートル、600 坪弱)の広さを歩き回るので足腰への負担は相当なものです。

「無農薬栽培のお米」は、田植え前から大変な苦労があつて作られているのです。

## ■ 手で植える



▲苗はすべて「手植え」です。

### 「手植え」で田植え

「手植えのことを五条植えと言うんですよ」

丸エビ倶楽部の海老沢会長の話通り、苗を植える際には一人で五条(5列)受け持ちました。条間 30 cm ですから、1.2m の幅に一人で苗を植えることになります。姿勢は常に中腰。左手で苗束を持ち、右手でそこから2, 3本の苗を取って、田んぼに描いた「点」に植えながら、一歩一歩足を運んでいきます。

五条を田んぼの端から端まで植え終える頃にはもうへとへとです。ずっと中腰なので腰が痛くなり、ぬかるみを歩くのでふくらはぎも太もも痛くなりました。加えて運動不足のせいか腹筋も痛くなり、炎天下の作業とあって頭痛や眩暈も。それでも、田んぼのほんの一区画しか植え終わっていません。

結局この日は 4 回半ほど(20 条とちょっと。時間にして 4 時間)手植えをしました。田植えが終わった頃には身体が痛くて立ち上がれない状態でした。

「昔の人は一人で 1 日 1 反歩を田植えして、ようやく一人前の手間賃がもらえたんですよ」田植えをする前に海老沢会長がそんな風に話していました。今日は 5 人がかりで 1.8 反歩を植えるのに半日かかっています。手植えの大変さと、昔の人の偉大さ、そして無農薬米の尊さを、身をもって体験できた 1 日でした。



生活クラブ茨城と丸エビ倶楽部は、  
人と環境にやさしいお米作りを目指しています。

田んぼの水は川を流れ、やがて湖や沼、海に達します。もし、多量の農薬が使われていたら、それが田んぼだけではなく、川や湖沼や海に流れ出て、水が汚染され、そこに住む生き物に悪影響が出る可能性があります。必要最低限の農薬にとどめることが、人と自然の未来を守ることにつながります。

次回のまるごと茨城・田んぼの学校は……  
新型コロナウィルスの感染状況により、開催を見送っています。  
開催時は、カタログ・HP・Twitter 等でお知らせいたします。